

基本情報

指標番号
2177

名称
退院後4週間以内の予定外再入院割合

分母
退院症例数

分子
分母のうち、前回退院から4週間以内に計画外で再入院した症例

指標群
マネジメント

意義
マネジメント

年度
2012,2014,2016,2018,2020,2022

必要データセット
DPC 様式1

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち入院経路が一般入院を対象とする2010～2013年度「2」、2014年度～「1」「4」「5」
3. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 前回退院日が今回の入院日から4週間以内で、再入院調査の再入院種別が計画外の再入院である症例数（2012年度～2015年度 3. 予期せぬ再入院、2016年度～ 2. 計画外の再入院）
2. 再入院種別が、『2：計画外の再入院』かつ、理由の種別が『6:新たな他疾患発症のため』以外（2012年度～2015年度1-3、5-6、2016年度～1-5、もしくは7の症例）

その他

薬剤一覧の出力
いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法
分子÷分母

医療の質測定 定義書

更新日：2022年8月8日

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

昇順

測定上の限界・解釈上の注意

参考資料

参考値

参考資料

1. 再入院調査は、前回退院年月日より6週間以内の再入院である場合の親様式1は入力必須となる。指標で利用している再入院種別は、2012年度～2015年度は3つに区分（1：計画的再入院、2：予期された再入院、3：予期せぬ再入院）され、2016年度からは2つに区分（1：計画的再入院、2：計画外の再入院）されている。なお、2012年度から2015年度の3：予期せぬ再入院としては理由は5区分（1：予期せぬ原疾患（前回入院時に医療資源を最も投入した傷病）の悪化、再発のため 2：予期せぬ原疾患の合併症発症のため 3：予期せぬ併存症（前回入院時の入院時併存症及び入院後発症疾患）の悪化のため 4：新たな他疾患発症のため 5：その他）が設定されており、2016年度からの2：計画外の再入院は7区分（1：原疾患（前回入院時の主傷病と医療資源を最も投入した傷病）の悪化、再発のため 2：原疾患の合併症発症のため 3：前回入院時の入院時併存症の悪化のため 4：前回入院時の入院後発症疾患の悪化のため 5：前回入院時の手術・処置や治療の合併症が退院後に発症したため 6：新たな他疾患発症のため 7：その他）が設定されている
2. 平成28年「DPC導入の影響評価に係る調査」実施説明資料によると、平成27年度調査からの主な変更点として、A000080 再入院調査 入力条件の変更が挙げられている。：「一般病棟グループ間で4週間以内(前回入院における一般病棟グループの退棟日又は退院日と当該入院における一般病棟グループへの入棟日とが4週間以内)に再入院した親様式1に入力する」
3. 平成30年「DPC導入の影響評価に係る調査」実施説明資料では、平成29年度調査からの主な変更点として、A000080 再入院調査入力条件の変更が再度挙げられている。：「※1:一般病棟グループ間で4週間以内に再入院した場合(一般病棟グループに入院していた患者が、当該病棟より退院した日の翌日又は転棟した日から起算して4週間以内に一般病棟グループに再入院した場合)であって、A000050 病棟2 調査対象となる一般病棟への入院の有無のみが"有"となっている再入院した様式1(親様式もしくは子様式)に入力する」